

2026年3月31日

各位

会社名 株式会社レノバ
代表者名 代表取締役社長 CEO 木南 陽介
(コード番号: 9519 東証プライム市場)
問合せ先 取締役執行役員 CFO 山口 和志
(TEL.03-3516-6263)

当社の蓄電事業に関する融資関連契約の締結のお知らせ

本日付けにて、当社が開発を進める蓄電事業（静岡県菊川市河東・90MW/270MWh）を行うアールワン蓄電所合同会社が、株式会社SBI新生銀行との間で融資関連契約の締結を決定、同日付で締結し、プロジェクトファイナンスを組成いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 目的

当社は、「グリーンかつ自立可能なエネルギー・システムを構築し重要な社会的課題を解決する」という「ミッション／経営理念」を掲げ、太陽光、バイオマス、風力といった再生可能エネルギー資源による発電事業を地域に根ざして進めています。昨今のAI普及に伴うデータセンターや半導体工場の新増設を背景に、将来的な電力需要の増大が見込まれる中、CO2を排出しない電源の確保は重要な課題となっており、再生可能エネルギーの重要性は一層高まっています。こうした環境下、当社は、再生可能エネルギーの電源開発に加えて、その主力電源化を支える蓄電事業の開発に取り組んでいます。

本事業は、国内最大規模の市場販売型蓄電事業であり、ノンリコースプロジェクトファイナンス組成案件としては先進的な事例です。市場販売型蓄電事業のプロジェクトファイナンスを姫路蓄電所（15MW/48MWh）において2023年に国内で初めて実現し、培ったファイナンス組成力を基に、この度、国内最大規模の本事業においても実現に至りました。大規模化によるMW当たりの事業費低減を通じたコスト競争力と、内製化した蓄電所の最適運用知見を組み合わせることで、将来、蓄電所間の競争が激化する環境下においても持続的な収益確保と収益最大化を実現します。

また、本蓄電所は主に「需給調整市場」及び「容量市場」での活用を予定しており、電力の需給バランス調整機能及び容量提供を担うことで、再生可能エネルギーの主力電源化を支える電力システムの安定化に貢献いたします。

2026年3月現在で、当社の運転中及び建設着手済みの蓄電事業の設備容量は352MWに達しました。当社は、中期経営計画において蓄電事業を重点分野の一つと位置付け、2030年までに累計設備容量900MWの構築を目指しております。今後も脱炭素に向けて蓄電事業の開発を進め、当社の企業価値向上を図ってまいります。

2. 今後の見通し

本融資関連契約の締結に伴う今期（2026年3月期）の業績予想への影響は、2026年3月27日付で公表した「通期連結業績予想（IFRS）の修正に関するお知らせ」に織り込み済みです。今後、公表すべき事項が生じた場合には速やかに開示いたします。

3. その他

当社は、共同スポンサーであるSMFLみらいパートナーズ株式会社及びNCSアールイーキャピタル株式会社と締結した「アールワン蓄電所合同会社に係る持分等の譲渡に関する覚書」に基づき、運転開始以降に各社が保有する特別目的会社出資持分（計40.0%）を取得する権利を有しており、当該権利を行使した場合には、当社の出資比率は80.0%となります。

【リリースに関するお問い合わせ先】

IR室 奥野

TEL：03-3516-6263

Eメール：ir@renovainc.com

(ご参考) 本蓄電事業の概要*1

蓄電所名 菊川西村蓄電所
事業主体 アールワン蓄電所合同会社
会社所在地 東京都中央区京橋二丁目2番地1号
建設予定地 静岡県菊川市河東
想定出力/想定容量 90MW/270MWh

出資会社	社名	出資比率
(出資比率順/五十音順)	株式会社レノバ	40.0%
	NCS アールイーキャピタル株式会社	30.0%
	SMFL みらいパートナーズ株式会社	30.0%

融資アレンジャー SBI新生銀行
融資金額 約60億円
着工*2 2025年度
運転開始 2028年度 (予定)

*1 事業の概要は本件発表時点での計画であり、今後変更となる可能性があります。

*2 本資料においては、EPC契約を締結した時点を「建設開始/着工」としており、「建設開始/着工」は詳細設計開始や機器発注等を含むため、現地での工事開始とは異なる場合があります。